

令和6年度 千曲市総合教育会議 議事録(要約)

1. 日 時

令和6年8月21日(水) 午前11時から午後0時

2. 場 所

千曲市役所 応接会議室

3. 会議日程

- (1) 開会
- (2) 市長あいさつ
- (3) 会議事項
- (4) 閉会

4. 議 題

- (1) 教職員の働き方改革の取り組みと学校DXについて
- (2) 清泉女学院大学との連携について

5. 出席者

市長	小川 修一
教育長	小松 信美
教育長職務代理者	中村 洋一
教育委員	松田 祐子
教育委員	新海 敦子
教育委員	吉味 淳
教育委員	若林 直美

教育部長	小岩 成夫
教育総務課長	小林 永典
教育総務課	田中 幸夫 鎌田 貞治 和田 貴裕
企画政策部長	栗原 力
総合政策課	鎌田 俊一 宮原 健太

6. 議事

1. 開会（進行：栗原企画政策部長）

2. 市長あいさつ

（小川市長）

令和6年度の千曲市総合教育会議の開催にあたりご挨拶を申し上げます。

日頃から委員の皆様には、市の教育行政にご尽力を賜りまして厚く御礼申し上げます。

本会議であります、教育を行うための諸条件の整備、そして地域の実情に応じた教育、学術及び文化の振興を図るため、重点的に講ずべき政策について協議するという目的で設けられております。

本日の会議の議題は二つであります。一つ目が、「教職員の働き方改革の取り組みと学校DXについて」でございます。長年にわたり教職員の働き方改革が課題となっておりますが、近年はDX（デジタルトランスフォーメーション）が果たす役割に注目が集まってきているところであります。本市においても、教育現場のDX推進による業務負担軽減を行い、教育の質の改善と児童生徒の学力向上に努めていきたいと考えております。

二つ目の会議事項ですが、「清泉女学院大学との連携について」でございます。先月清泉女学院大学様と共同の記者会見を行いました。2027年の4月に旧更埴庁舎の跡地に新しいキャンパスを作りまして、（仮称）農学部アグリデザイン学科の構想が発表されたところであります。当市といたしましては、農学部など農業はもちろんですが、教育の面から子どもたちとの連携など様々な波及効果を期待しておりまして、市と大学と連携して積極的に支援をしていきたいと考えております。

本日はこれら二つの議題について意見交換を行いたいと思っております。限られた時間ではあります、皆様から忌憚のないご意見をいただきながら実りある会にしていきたいと考えておりますので、本日はどうぞよろしくお願いいたします。

3. 会議事項（進行：小川市長）

（1）教職員の働き方改革の取り組みと学校DXについて

資料に基づき説明（小林教育総務課長）

教職員の働き方改革の取り組みと学校DXについて

社会情勢の変化に伴い教育現場では様々な変化に対応していかなければならず、昨今では新型コロナウイルスによる学校行事・学校運営への影響、地球規模の気候変動、ICTなどのデジタル技術の加速度的な発展、発達障害、きめ細かな支援を必要とする児童生徒が増加傾向にあるということ、医療的ケアが必要なお子さん、ヤングケアラー、児童虐待、貧困問題など子どもたちが抱える困難や学校が抱える課題も多様化複雑化してきております。

その様な中、教職員の職務は多岐に渡り、時間的、精神的にも大きく負担がかかる状況になっております。

市教委では、これまでも教職員の働き方改革を進めてきました。

人的な配置として、県費加配教職員の適正な配置、市会計年度任用職員の配置、ICT では令和元年から校務支援システム C4th(シーフォース)の導入、令和3年から中学校の部活動指導員の配置、昨年から千曲坂城クラブを立ち上げ、部活動の地域移行に取り組んでいます。

これにより教職員が教育活動に専念できる環境を整え、児童生徒に向き合う時間の確保などに向け今後、更なる教職員の働き方改革を進めていきたいと考えております。

働き方改革の具体的な取組み

これまで実施してきた教職員の働き方改革は以下のとおり。

(1) 超過勤務対策

- ・学校リフレッシュウィーク(学校完全閉庁日 お盆を含む連続休暇・年末年始)
- ・定時退勤日の月2回以上設定
- ・勤務の割り振りをしやすい日程の工夫
- ・校務時間を確保するための下校時刻の前倒し
- ・チラシ等配布物の削減等

(2) 学校運営改革

- ・会議の精選(会議時間の短縮 時間外含む)
- ・行事の精選
- ・研修会の精選
- ・小学校教科担任制
- ・学校開錠時刻の調整
- ・下校時刻を早くする

(3) ICTの活用(校務DX)

① 統合型校務支援システム(C4th)

- ・児童生徒名簿管理
- ・成績管理
- ・出欠管理
- ・欠席連絡アプリ
- ・保護者連絡アプリ
- ・ICカードやアプリによる出退勤管理

② テスト採点支援システム(R5 試験的に運用し、R6 から本格導入)

- ・選択問題の採点がほぼ自動化
- ・記述式問題の採点基準の統一化が容易
- ・点数集計の自動化、問題単位の正答率等のテスト結果分析が容易

③ Google クラウドの活用

- ・ビデオ会議アプリ Google Meet
- ・学習支援アプリ Google Classroom

- ・アンケート作成アプリ Google Forms
- ・文書作成アプリ Google ドキュメント等
- ④ 校務サーバによるデータ共有
 - ・過去のドキュメントといった資産を教職員間で共有が容易
- ⑤ 最新型印刷機の導入
 - ・令和4年度～8年度までの長期継続契約 点検、保守料金や消耗品費込みの一括契約
 - ・学校ではランニングコストを気にせずに高速印刷が可能
- (4) 学校徴収金関係
 - ・給食費の公会計化(学校給食センターで管理)
 - ・学年費旅行貯金の口座引き落とし(多くの学校)
- (5) 児童生徒への支援(人的配置)
 - ・市費特別支援教育支援員
 - ・市費教育課題支援講師(理科専科等)
 - ・市費学校事務員(大規模校2校)
 - ・市費学校図書館司書(全小中学校)
 - ・市費教育支援センター指導員
 - ・市費チャイルドサポーター(R5年度～訪問型支援)
 - ・市費保健業務補助養護教諭
 - ・教員業務支援員(SSS 県費スクール・サポート・スタッフの活用)
 - ・学校支援ボランティア(見守り隊・校内ワックスがけ等)
- (6) 部活動の負担軽減
 - ・市費部活動指導員(R3年度～)
 - ・千曲坂城クラブ(R8年度に完全移行を目指す)

千曲市市立学校の教職員の勤務実態

長野県が取りまとめている千曲市の市内教職員一人あたりの勤務日の時間外勤務平均時間(最新のデータ(令和5年12月期))では、31時間11分で長野県全体での平均よりも1時間程度少ない状況となっております。この値は令和4年度の35時間35分と比べ4時間程度縮減されており働き方改革の成果が出てきているが、平均で30時間以上残業しているという実態や、中には45時間を超えて勤務されている教職員もいる。

校務DXの進捗状況

令和5年12月27日文科省で行った調査(GIGAスクール構想の下での校務DX化が自己点検によりどのくらい進んでいるかというもの)の結果は千曲市は430.5点で19市中で1位となっている。また長野県全域の356.6点を大きく超えている状況。

今後の必要な対策について

- 以下の項目を中心に対策を進めて参りたい。
- ・各種教育支援ツールの導入検討(GIGAスクール推進委員会)

- ・学校ホームページシステムの更新(ブログ形式・承認システムの導入)
- ・市会計年度任用職員の勤務管理システムの構築(紙ベースからデジタル管理に)
- ・学校徴収金を現金(手渡し集金)している学校の口座引き落とし化(アプリ活用)
- ・学校行事などの臨時の学校徴収金の口座引き落としシステム(アプリ活用)
- ・人的配置、支援体制の充実
- ・県費不登校児童生徒支援加配教員がつかない学校への市費不登校児童生徒支援員の配置
- ・中学校部活動地域移行の推進
- ・学校施設・設備の改善(内線電話・校内WiFi環境など)

質疑応答

(吉味委員)

欠席した児童・生徒への配布物の配布方法について、現状では欠席した児童・生徒の親が学校に取りに行く場合や、担任の先生が自宅まで届ける場合等もあると思いますが、先生にとってはかなり負担だと思います。これは配布物が紙ベースだから起きることだと思いますので、この辺を DX 化の中でデジタル化していただければ先生方の負担もかなり減るのではないかと思います。

(小林教育総務課長)

吉味委員おっしゃられた通り、先生が届ける場合もあると承知しております。これは緊急性が高いもの、重要な配布物の場合になると思われれます。そのほかの通常の配布物についてはアプリを使ったりする方が保護者に直接に届きますのでそういったところも進めていきたいと思っております。

(中村職務代理者)

DX 等を利用していただいて、働き方改革に取り組んでいただいて非常にありがたいと思うのですが、DX の目的が誤らないように現場の先生方の意見を伺ったりして進めてもらいたいと思っております。

例えば、テストの採点支援システムは県でも入ることになっており、選択問題の採点は簡単にできます。ところが記述式問題の採点基準の統一は、現時点では難しい。これにあまり頼りすぎたり過信したりすると、〇か×になってしまうのでそういうところを考えていかなければいけないと思っております。

また、テスト結果分析については、これは私の経験で言うと、教員養成課程でテストのデータ分析の授業があまりないのでこういった機会を捉えてデータ分析の研修もやっていく必要があると思っております。

いずれにしても働き改革の目標は良いが、それが教育活動の質を下げるような心配もあるということを考えながら取り組んでいただければと思います。

(小川市長)

DX を進めるにしても現場の先生方のご意見もお聞きして、バランスよくデジタル・従来のやり方とのハイブリッドでやるのが必要で、またデータ分析方法を身に着けること、先生によってはばらつきがないようにしていくことが大事であると思っております。

(新海委員)

家庭と学校との色々な配布物等のやり取りで齟齬が起こらないために、特に不登校のお子さんについて県教委からコミュニケーションシートが出ています。ああいうものを使いながら保護者が子どもの実態からどういうやり取りを学校と望んでいるのかとか、配布物はどうしてほしいとか、先生の訪問はどうするかとかしっかり残しながら担任の先生だけではなく学校全体が共通理解できるようなものを保護者もちゃんとそれを基にして、子どもの支援ができるようなベースを作っていくべきだなと思います。特に配慮を要するお子さんについてはこういうものを積極的に利用していただきたいと思っています。

働き方改革で先生たちの時間外勤務時間が減ってきていて、できた時間を先生たちが有効に活用していくということが本当にできてくればいいなと願っています。

特に子どもたちのために授業の質を高めるところに先生たちの本来の時間を使えるような時間の使い方を考えていく必要があると思います。働き方改革が、先生たちの勤務時間を短くする時短だけが目標にならないように、一番必要なところに時間が充てられるようなことを考えていかなければいけないと思っています。

(小川市長)

コミュニケーションシートの活用や欠席した児童・生徒さん並びに保護者の方への対応は各学校や教育委員会で統一的に共通の理解をして対応していくことが必要と考えます。

また働き方改革の目的については、先生方の心身の健康のために行っている側面もあるが、ゆとりある指導、子どもに向き合う時間の確保、授業の質を高めることを主眼にしているということを先生方にもう一度意識してもらえればと思います。

(2) 清泉女学院大学との連携について

資料に基づき説明(鎌田総合政策課主幹)

農学部設置構想について

過日、清泉女学院大学が文科省の助成事業の対象に選定され、7月11日に清泉女学院大学と共同記者発表を行い、千曲市に農学部を新設する構想について発表させていただきました。

つきましては清泉女学院大学の農学部が新設されるにあたり、農業はもちろんですが、その他の産業の活性化や、地域における学習の機会の提供など、大学と市の連携協働によるまちづくりを推進し、千曲市の活性化に向けた検討を進めていきたいと考えております。

今回新設を予定している学部は、千曲市の旧更埴庁舎跡地に(仮称)農学部アグリデザイン学科の開設を目指しております。農学部というと、一般的には田畑を耕し、農作物の生育方法等を学ぶといったイメージがありますが、今回の構想は、農業に関わらず幅広い分野を学ぶものとなっております。具体的には、味噌やワイン、日本酒などの長野県の強みを生かした発酵・醸造を学ぶ「農芸化学コース」と経営やマーケティング、ビジネス、地域振興などを学ぶ「地域創生コース」の1学部1学科2コースの設置を予定しており2027年4月からの開設で入学定員80名、全体で320の学生が千曲市に通う予定となっております。

千曲市との教育分野における連携について

大学側としては教育分野において、中学校との連携を考えており、既に具体的なご提案をいただいております。

中学校の総合的な学習時間に、大学の教職員が出前授業を行うことで、身近に清泉大学を感じてもらい、その内容を通じて自身と地域の未来について考えるきっかけとしてもらうことで、新たな気づきを得るとともに、千曲市・長野県についても関心を寄せてもらうことを目的としております。

教育分野における連携の背景というところですが、全国的に高校と大学の連携についての事例は一般的ですが、中学と大学と何らかの連携を図っているケースは極めて少なく、中大連携を千曲市の中等教育の特徴とすることができるとしております。

また昨今、国内の多くの自治体において社会問題となっております人口減少について、大学進学時の首都圏への流出がその大きな要因となっていることから、県内大学への進学を選択肢とすることで、人口流出の抑制に繋げていきたいということです。

大学が考えている出前講座の案は千曲市の中学生に未来を考えてもらうシリーズとして、テーマ 1「千曲市と長野県の未来」、テーマ 2「わたしの未来(キャリア教育)」、テーマ 3「お金と生活の未来(身近な経済)」の3つをご提案いただいております。次年度の中学校のカリキュラムに入れていただけるよう講座の内容も含めて教育委員会と調整していきたいと考えております。

また今後のスケジュール等になりますが、中学校への出前講座については、大学側ではすぐにも実施していきたいとの意向を示しております。また開校 2 年前にはプレオープンキャンパス、1 年前にはオープンキャンパスを市の施設等を借りて実施したいとのこと 2027 年 4 月の開校に向けては、2026 年 3 月頃から大学の建築を始め、学生の募集は 2026 年 9 月に開始する予定となっております。

また公開講座については清泉女学院大学と千曲市が平成 24 年度から産学官連携パートナーシップ協定を締結し、産業振興、観光振興、文化振興、人材育成、福祉の増進等の分野において連携を図っており、その連携の一つとして公民館での公開講座の講師をお願いして実施しております。本日教育長職務代理者としてご出席いただいております中村教授には連携事業に積極的に取り組んでいただいております。ゼミの学生の皆さんにもご協力をいただいております。

質疑応答

(小川市長)

清泉女学院大学さんとは教育関係で今までも包括連携協定を行ってきたということで様々な出前講座などもやっていただいております。総合政策課からの説明にあった大学側からの提案以外のことも含めて市内の子どもたちと教育・学びについて、大学とどの様に協力して進めていくかということについてご提案いただければと思います。

(小松教育長)

先ほど説明のあった教育分野における連携の背景のところですが大学と高校は高大連携ということで全国的にも大変活発に行われていますが、義務教育段階との連携は非常に少ないのではないかなというふうに思います。今回清泉さんの方で中学生に未来を考えてもらうシリーズということで出前講座のご提案をいただいて、私どもとしては非常にありがたいなと、非常に学習の幅が広がってくるなとい

う思いがありました。この講座のご提案について、テーマ 1、テーマ 2、テーマ 3、についてアウトラインは 7 月の校長会の方でもうインフォメーションをさせていただきました。年度途中でしたので、出前講座の計画を途中に入れ込むということは非常に難しいので、このテーマに沿って各学校で考えていただくように指示してございます。今後詳しい内容がわかり次第またインフォメーションしますと言ってありますので、今回出していただいた資料ではそれぞれ前回よりも具体的に内容が書かれておりますので、これをまた校長会の方に増刷りをして、各学校で来年度の中に入れ込める、あるいは今年度中に入れ込めるものがあれば入れるというようにやっていきたいと思えます。

特に金融関係は公民の関係でうまくできるのではないかと思います。あと生涯学習の関係で職務代理さんの方でもいろいろご協力いただいて、一般市民向けの講座など幅広く学習の機会を提供していただけることを考えると市全体で、学校だけではなくて、市民向けの学習の機会も大事になると思えます。

(中村職務代理者)

今全国で大学の学生集めがどこも集まらなくて定員割れしています。清泉女学院大学もそういう問題に直面していますけど、唯一、学生が増えている分野があって、それが農業分野なんです。若い人たちが非農家なんだけども、農業をやる、農業に関わりたいて人が増えている。そこに目をつけたっていうことなんですけど、いわゆる従来の理系の農学部ではなくて、人文社会系の農学部の中のアグリエコノミクスとかアグリそれこそアグリカルチャーが中心になってるっていうことを目指しているのでぜひその点ご協力いただきたいと思えます。

また、大学の教員は外に出やすいようで出にくいので、教育委員会の方から、総合的な学習をやってくれとか、理系の話をしてくれとかっていうことをどんどん出していただければと思えます。

(松田委員)

教授との関わりは魅力だと思います。専門を極めた方や色々な魅力のある教授と関わっていききたい思いが非常に強いです。それと、千曲市の農業、離農、農業から離れている若者がどんどんいて、ワイン醸造所とかブドウを作っている方が増えてきてはいるけれども、農業っていうのをもう 1 回考える。そういう方向には大学はいかないんでしょうか。

(中村職務代理者)

市長さんも記者会見でおっしゃっていただいたんですけど、千曲市・長野県・全国の農業をどうするんだと、食をどうするんだってということが農学部構想の根本にあって、農業が大事なんだってことは皆薄々気がついているんですけど、でも実際に農業従事者がどんどん減って行って、そうなってくると、大規模の農業ができるそんな可能性があるということとそんな応援の仕方をしていただければなと思えます。

(小川市長)

今回の農学部の構想について私なりの理解でご説明させていただくと、長野県では信大の農学部が南信にあって、県の農業大学校が松代にあります。そこはより具体的な農業の技術を教えているところとして、すぐ畑を自分でやりたいという方はそこに行って学んで就農されるということなんですけども、

今回の清泉大学の場合はそういった学校とまた違った形の農学部、先ほど中村先生が言われた人文系の要素も含めたことを学べる地域創生のコース、醸造関係、発酵関係の農芸化学コースの二つを作るということで、棲み分けをするというような目的もあります。

そして大学が千曲市の子どもや市民向けの生涯学習の機会を通じて農業をやってみようという人が今後出てくる可能性も当然あると思います。人口減少は避けられないですし、子どもが増えていくことは残念ながら考えにくい現状なので、農業に従事する人の数はどうしても絶対数は減ってしまいます。そうした中で先ほど中村先生が言われた大規模化や DX を活用したスマート農業など未来の農業のあり方や農業自体に関心を持ってもらう人が増えていく、千曲市がその中心となるまちとして地域の課題を解決しながら長野県の課題を解決して、全国から注目されるように学校と市との連携をしていきたい、そういう可能性を秘めた農学部だと理解しています。

4. 閉会